

習志野市の自然・谷津干潟に関する資料

平成29年4月現在

<自然>

習志野市名木百選	習志野市環境部自然保護課／編	N 965.3 ナ
市民から推薦された市内の樹木を平成14年11月に習志野市選定委員会が選定した75本を種類ごとに紹介。 【2003年発行】		

木の向くままに	習志野市環境部自然保護課／編	N 965.3 ナ
市民から推薦された市内の樹木を平成14年11月に習志野市選定委員会が選定した75本を種類ごとに紹介。 *「習志野市名木百選」の内容を一部改訂したもの。 【2008年発行】		

<谷津干潟>

谷津干潟の羽音	安田 淑江／著	N 974.8 ヤ
谷津干潟の水鳥に魅了され、夢中で写し続けた一年間。水鳥のちょっとした動きや生活、そして自然の営みをドラマチックに瞬間的に写しとった写真集。 【1995年発行】		

谷津干潟ガイドブック	谷津干潟ガイドブック作成プロジェクト ／編	N 946.8 ヤ
干潟に飛来する野鳥の他に干潟の泥の中に棲んでいる生き物や、干潟周辺に植生する植物及び生息する昆虫の一部も収録。 【2001年発行】		

干潟の鳥ウォッチング	石川 勉／写真・文	N 948.8 イ
習志野市の海岸部の埋立地に残る小さな干潟、谷津干潟。東京湾の干潟の縮図ともいえる谷津干潟で長年にわたり観察を続けている著者が、干潟を訪れる鳥たちの生態などを、300点余りの豊富な写真でわかりやすく解説。 【2001年発行】		

がんばれカルガモ赤ちゃん	安田 淑江／著	N 948.8 ヤ
谷津干潟に連れて来られたカルガモの赤ちゃん。撮影者がヒナたちに送る暖かいメッセージと“がんばれ”という想いが伝わってくる写真集。 【1997年発行】		

シロチドリ 復刻版 No.1(1977年9月)~No.17 (1983年4月)	国松 俊英／編者	N 948.8 ヤ
<p>谷津ひがたこどもつうしん「シロチドリ」は、千葉の干潟を守る会の活動のひとつとして作ったもので、そのNo.1(1977年9月)~No.17(1983年4月)の復刻版。</p> <p>【2001年発行】</p>		

未来のために 谷津干潟とブードル湿地の過 去と現在と未来への報告	習志野市・ブリズベン市／発行	N 951.9 ナ
<p>日本とオーストラリアの間を飛来する渡り鳥の保護、渡り鳥が生息する湿地の保全およびその重要性を次世代に顕彰するために、習志野市・ブリズベン市およびクイーンズランド州が傾注した記録。</p> <p>【2005年発行】</p>		

干潟の四季	森田 三郎／著	N 951.9 モ
<p>『谷津干潟クリーン作戦のご案内』に添えた簡単な文章を、谷津干潟の保存が決まる1988年頃を中心にまとめたもの。</p> <p>【1999年発行】</p>		

谷津干潟はこうして残った	「谷津干潟はこうして残った」編集委員 会／発行	N 951.9 ヤ
<p>さまざまな団体や広範な市民による、谷津干潟保全をめぐる運動の歴史・成果をまとめたもの。</p> <p>【2010年発行】</p>		

谷津干潟自然観センターボランティア白書	谷津干潟自然観察センターボランティ ア白書作成プロジェクトチーム／編	N 951.9 ヤ
<p>谷津干潟自然観察センター開設20周年記念出版物。</p> <p>谷津干潟自然観センターでのボランティア活動の記録や統計、関連データをまとめたもの。</p> <p>【2014年発行】</p>		

わが青春の谷津干潟	ほんだ かよこ／著	N 991.6 ホ
<p>「将来を担う子ども達に、俺が遊んだ豊かな自然を少しでも残してやりたい」と、行政の埋めたて計画と真正面から戦ってきた14年。谷津干潟は“ラムサール湿地条約登録地”となった。森田三郎さんの労苦と成果をつづるドキュメンタリー。</p> <p>【1993年発行】</p>		

どろんこサブウ	松下 竜一／文	N 991.6 マ
<p>ゴミの下で死にかけていた谷津干潟を救うため15年間ゴミを拾いつづけた森田三郎さんの記録。[児童向け図書]</p> <p>谷津干潟の15年:p188~189</p> <p>【1990年発行】</p>		

いきかえった谷津ひがた	木暮 正夫／作 渡辺 安芸夫／絵	N 9E ヲ
<p>「ひがたは、カニや貝を育てる、いのちのゆりかご、自分の手でこの自然を…」森田三郎さんの情熱と行動が多くの人の心を動かし、やがて、ひがたは…。ひとりからの出発が、自然を守った。[児童向け図書]</p> <p>【1996年発行】</p>		

小さな四角い海・谷津干潟	斉藤 弘子／文 長島 充／絵	N 9E ナ
<p>マンションや高速道路に囲まれた一角に、年間170種類もの野鳥がやってくる場所「谷津干潟」。1993年に渡り鳥の中継地である湿地を護る国際条約ラムサール条約にも登録され、永久に残されることになっています。自然環境に恵まれているとは思えないこの場所に、どうしてこんなにもいろんな鳥が訪ねてくるのでしょうか。[児童向け図書]</p> <p>【2006年発行】</p>		